

U.S. Indicators

米国 7ヶ月ぶりの増加も調整色深まる(15年2月製造業受注・出荷)

発表日：2015年4月3日(金)

～機械設備投資は緩やかなプラス基調に～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

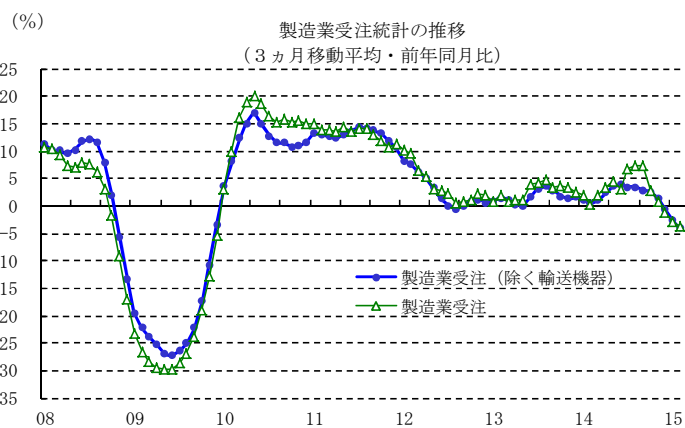
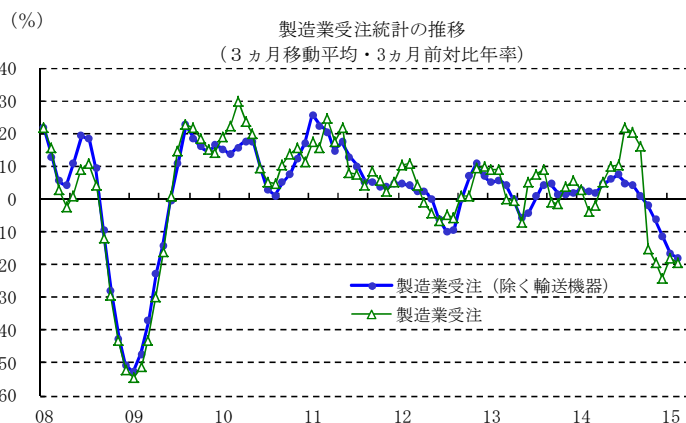
製造業受注 (Manufacturers' Shipments and Orders)

	出荷				受注				在庫			
	製造業	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	製造業	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	製造業	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器
14/02	+1.0	+0.8	(+0.9)	+0.8	+1.7	+0.8	(▲0.3)	+0.1	+0.7	+0.5	+0.5	
14/03	+0.4	+0.3	(+2.9)	+2.2	+1.5	+0.8	(+3.7)	+4.7	+0.2	+0.1	▲0.0	
14/04	+0.4	+0.6	(+4.0)	▲0.3	+0.8	+0.6	(+3.9)	▲1.1	+0.5	+0.5	+0.4	
14/05	▲0.1	▲0.1	(+2.7)	+0.1	▲0.6	▲0.2	(+2.9)	▲1.4	+0.8	+0.8	+0.5	
14/06	+0.8	+0.7	(+4.1)	+1.0	+1.5	+1.4	(+4.8)	+5.4	+0.2	▲0.0	▲0.0	
14/07	+1.4	+0.3	(+4.4)	+2.0	+10.5	▲0.7	(+2.6)	▲0.1	+0.0	▲0.1	+0.7	
14/08	▲1.1	▲0.3	(+3.0)	+0.2	▲10.0	+0.0	(+2.9)	+0.4	+0.1	+0.0	+0.3	
14/09	+0.1	+0.0	(+3.1)	+0.7	▲0.5	+0.0	(+3.2)	▲1.1	+0.2	+0.1	+0.3	
14/10	▲0.9	▲1.2	(+2.0)	▲0.9	▲0.7	▲1.5	(+1.7)	▲1.8	+0.1	▲0.1	▲0.1	
14/11	▲1.0	▲1.0	(▲0.3)	▲0.5	▲1.7	▲1.3	(▲0.6)	▲0.5	+0.0	▲0.2	▲0.1	
14/12	▲0.9	▲1.8	(▲0.8)	+0.4	▲3.5	▲2.3	(▲3.0)	▲0.5	▲0.4	▲0.6	▲0.0	
15/01	▲2.3	▲2.5	(▲2.4)	▲0.6	▲0.7	▲2.3	(▲4.5)	▲0.3	▲0.4	▲0.7	▲0.3	
15/02	+0.7	+0.9	(▲2.6)	+0.3	+0.2	+0.8	(▲4.5)	▲1.1	+0.1	▲0.1	+0.1	

2月の製造業受注は前月比+0.2%

2月の製造業受注は、冬の嵐や西海岸の港湾ストの影響を受け自動車など耐久財が落ち込んだ一方、非耐久財が前月比+1.8%増加したことを背景に同+0.2%（1月同▲0.7%）と市場予想の同▲0.4%に反して、7ヵ月ぶりの増加となった。また、変動の大きい輸送機器を除いた製造業受注は、一次金属、電子機器関連、非耐久財の増加によって、同+0.8%（1月同▲2.3%）と5ヵ月ぶりに増加した。

製造業統計は月次での変動が大きいため、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でモメンタムをみると、製造業受注が▲19.3%（1月▲17.9%）、輸送機器を除いた製造業受注が▲18.0%（1月▲16.7%）とマイナス幅を拡大した。価格、数量の両面からの押し下げ圧力を受け、製造業受注は勢いを失っている。また、前年比でもマイナス幅を拡大しており、調整が深まっている。

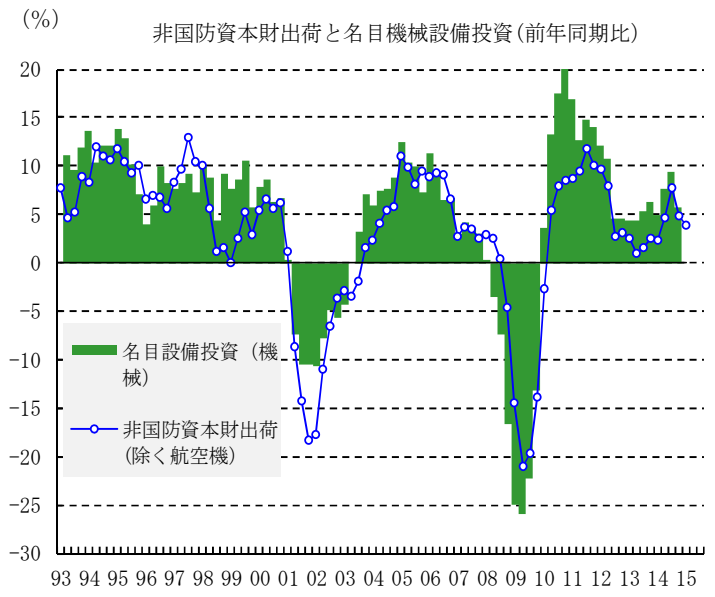
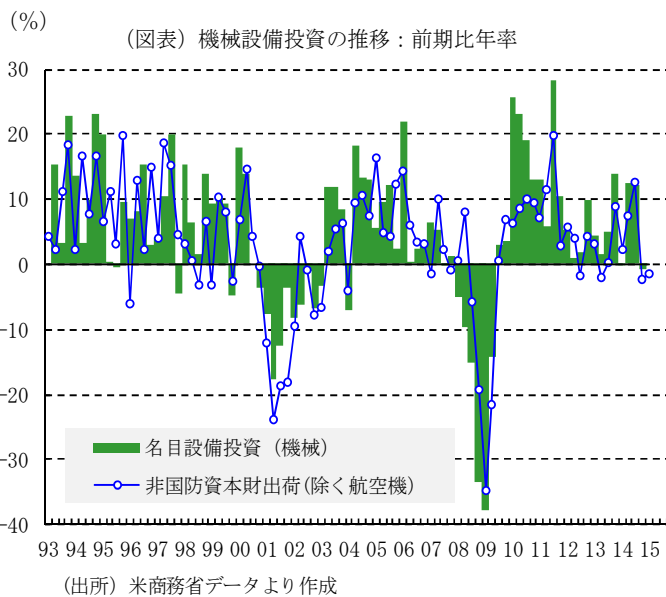


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**設備投資の動向を示す
航空機を除く非国防資本財受注・出荷はともに
下方修正**

設備投資に関しては、機械設備投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）が2月に前月比+0.3%と増加したが、1、2月平均では、10-12月期対比年率▲1.5%（速報同▲1.0%）と減少している。10-12月期の前期比年率▲2.3%からマイナス幅を縮小しているが弱く、1-3月期の機械設備投資は10-12月期の前期比年率+0.9%から小幅の加速にとどまると見込まれる。

機械設備投資の先行指標である非国防資本財受注（除く航空機）は、2月に前月比▲1.1%（1月同▲0.3%）と減少幅を拡大した。1、2月平均では、10-12月期比年率▲5.3%（速報同▲5.1%）と10-12月期の前期比年率▲11.1%からマイナス幅を縮小したがマイナスにとどまっており、15年4-6月期の機械設備投資は低い伸びとなる可能性が高い。



**加工金属、一般機械、
コンピューター・電気
製品、輸送機器、家
具・同関連が減少した
一方で、一次金属、電
子機器関連、非耐久財
が増加**

2月の業種別の受注動向をみると、加工金属、一般機械、コンピューター・電気製品、輸送機器、家具・同関連が減少した一方で、一次金属、電子機器関連、非耐久財が増加した。

加工金属は、価格低下圧力が強いほか、西海岸の港湾ストによる部品不足を受け自動車の生産台数が削減された影響で前月比▲2.0%（1月同▲2.3%）と減少した。ただし、港湾ストは既に終了しており、輸送機器向け需要は徐々に回復すると考えられる。

一般機械は、前月比▲1.6%（1月▲0.2%）と減少した。住宅販売の回復傾向や商業不動産需要の拡大等を受けた建設機器関連が前月比+15.9%（1月同▲5.7%）と増加に転じたほか、景気拡大により需要の強まっている金属加工機械、荷役機器が増加した。産業機械は同▲7.2%と減少したが、中小企業向けに需要が拡大しており、一時的な落ち込みと判断される。一方、資源価格の下落が続くなかで変動の大きい鉱業機器が前月比▲16.6%減少した。原油価格の急落によって、掘削需要が弱まっており、鉱業機器は今後減少基調を辿り、一般機械全体の足を引っ張る可能性が高い。

コンピューター・電気製品は、前月比▲0.7%（1月同+0.8%）と減少した。電子部品が前月比+1.3%（1月同+3.6%）と好調を維持したものの、非国防通信設備が同▲0.6%（同▲2.1%）、電子医療機器・計測機器・制御装置が同▲1.1%（同▲3.2%）と

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

減少した。

さらに、変動の大きい輸送機器は、前月比▲3.3%（1月同+8.9%）と減少に転じた。船舶が同+26.4%（同▲34.9%）と増加に転じた一方で、輸送機器の主要な構成項目である自動車・同部品が港湾ストや悪天候の影響により、同▲1.2%（同+0.4%）と減少した。月次での変動が大きい国防航空機・同部品は、緊縮財政の影響を受け前月比▲33.1%（同▲11.6%）と減少幅を拡大したほか、非国防航空機・同部品が同▲8.8%（同+122.3%）と減少に転じた。ただし、資源価格下落や金融引き締めによって新興国経済の成長が鈍化しているものの、燃費効率の高い航空機への世界的な需要は強く非国防航空機・同部品は増加基調を維持すると考えられる。

家具・関連製品が悪天候の影響によって前月比▲2.4%（1月同+0.1%）と減少したが、住宅販売が回復傾向にあることから、堅調さを維持していると判断され、再び拡大すると予想される。

一方、増加した業種では、一次金属が鉄合金の減少にもかかわらず、アルミニウム、鉄鋼などの増加もあり前月比+0.8%（1月同▲1.5%）と増加した。また、電子機器関連は、前月比+3.0%（1月同▲5.4%）と増加した。家庭用電気機器、電装品が減少幅を縮小し、照明器具が増加に転じた。

以上